

尊光寺報

第124号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座 ⑱

(赤い経本九巻)

如来所以興出世 唯説弥陀本願海 五濁悪時群生海 応信如来如実言

「お釈迦さまは阿弥陀さまの救いを伝えるために」

前回は、お釈迦さまがこの世に出られたのは、阿弥陀さまの本願を説くためであったというところをお話ししました。本願とは、南無阿弥陀仏一つで必ずあなたを救う、どうか私の名前(南無阿弥陀仏)を聞いてくれよ、称えてくれよ、という阿弥陀さまの根本の願いです。

今回は、お釈迦さまの生涯に触れながら、「五濁悪時」についてお話し致します。

お釈迦さまは今から二千五百年ほど前のインド北部に誕生になります。当時のインドは大小様々な国が並び立つ乱世であったようです。お釈迦さまはそのインドの中の小国である釈迦国の王子として生まれます。生まれる前に母であるマヤー(摩耶夫人)は、大きく白い六本の牙を持つゾウが胎内に入る夢を見ます。いかなることであろうかと、占い師に見てもらったところ、「これから生まれてくる子は、王として育つたならば偉大な王となるであろう。ただし、出家して修行者になることがあつたならば、これまた偉大な宗教家となつて人々を安らぎに導くであろう。しかしいずれにしろ私は年老いその姿を見ることができないことが残念でならない」と言葉をおかけたとあります。これを聞いた父王であるシユツドーナ(浄飯王)は、生まれてくる子が王位を継いでくれるであろうか、出家してしまつては王位を継ぐ者がおらず国は滅亡してしまふのではないかと、大きな不安を抱きます。そこで父王は、子が生まれると、贅沢で不自由無く、この世の汚れた部分を一切見せない生活を送らせることにします。悩み煩うこと



手相を見せる父王とマヤー夫人/インド彫刻

が無かつたならば出家などしないであろうと考えたのでしよう。

しかし、転機は突如やつてきます。ある日、青年となつた王子は住まいの城から外へお出かけになります。城の東門から出たとき、そこには今まで見たことのないものが見えたのです。腰を曲げて杖をついた人のように見えるが自身の知つていような人ではない人。老人であります。思わず王子はお付きの者に尋ねます。アレは何であろうかと。今まで年老いた者の姿を見たことが無かつた王子は大変な驚きを受けます。「何故あの者は腰が曲がつているのか。何か悪いことをし、その罰を受けてあのような姿になつたのか」と問います。お付きの者は、「どのよう



若い女性ばかりに囲まれ暮らす若きお釈迦さま

うな者も歳を重ねるとあのような姿になります。今は若き王子もいずればあのように」と答えます。王子は大きなショックを受けその日はお出かけを取り止めます。東という方角が悪かつたのか、次は南門から外へ出ます。すると今度は病人に出会います。さらに西門から出たときは葬儀の列に出会います。今まで老・病・死ということを知らなかつた王子は、初めて老・病・死があることを知り、なによりもそれらの現実はこの自分の身にも迫つていいる現実であると知るので。この出来事以来、王子は悩むのですが、まだ出家には至りません。北門から出かけたとき、そこには俗世の生活を捨て、苦しみの無い境地を求めて修行している出家修行者に出会うのです。さとりは開いていないものの、真実を求めるその清々しい姿に心を打たれ、王子は出家を選ぶのです。そこから修行を重ねられたお釈迦さまは、ついに、この世の苦しみの原因は煩惱であり、その苦しみの無い境地があること、そこへ向かう方法があることを悟られるのです。八十歳でその生涯を閉じられるまで、多くの人々にその教えを伝えられたのです。その教えがお釈迦さまの教え、仏教なのです。

お釈迦さまの出家の契機となつたこの話は、「四門出遊」と呼ばれる有名な話ですが、仏教の原点を見事に表現しています。それは、この私が老・病・死の現実から逃れることのできない存在であるにもかかわらず、それから目をそらし、ごまかしながら生きていこうとするのです。私たちはこの世が何か素晴らしい世界であるかのように思い、人生を豊かにしようと思つて暮らして見ます。しかし、地位や名声、お金、健康、家族がいかにあろうとも、すべてこの世に置いて我々は死を迎えなければなりません。一日長生きをすると言うことは一日自らの死に近づ

法要・行事のご案内

◎ 春の彼岸会永代経法要

【3月21・22日】西日とも午後1時から法要

※3月22日は仏教婦人会総会を兼ねます。婦人会会食は午前11時半から。食事準備お手伝い可能な方は9時頃よりお願い致します。

◎ 太陽が真西に沈むお彼岸の期間。西方に懐かしい人の往かれたお浄土を思い、私も同じお浄土へ必ず参るぞと、仏法に会わせていただきます。

〈法話講師 本願寺派布教使、副住職友人 四夷法頭師〉

◎ 宗祖親鸞聖人降誕会法要

ならびに 午後 門信徒総会

【5月1日】午前10時より法要つづいて午後総会

食事準備お手伝いいただける方は9時頃より。

◎ 宗祖親鸞聖人のお誕生をお祝いする法要です。念仏に出会えたことを感謝し慶びましょう。 〈法話 副住職〉

◎ 徳島仏教婦人会連盟総会・門信徒研修会

【6月18日】午前10時半より、あわぎんホール

◎ 費用二千円(昼食弁当・尊光寺から会場までのバス代込み)

本願寺・大谷本願寺 参拝旅行(団参) 募集

本年(2019)の日程は、

【一泊二日】 6月24日(月)〜25日(火) 費用3万5千円

大谷本願法要・納骨、本願寺参拝の後、福井県あわら温泉・永平寺・吉崎を予定

【日帰り】 6月24日(月) 費用1万5千円

大谷本願法要・納骨、本願寺参拝の後、妙心寺塔頭退蔵院を参拝予定

◎ 年に一度の団体参拝です。どうぞお仲間お誘い合わせの上、ふるつてご参加ください。どなたでもご参加いただけます。

◎ 本山への分骨納骨、おかみそり(法名をいただく式)の申し込み、お仏壇のご本尊の新調などもできます。

◎ 申し込みは尊光寺まで。

いていることに他ならないのです。この現実を知ったとき、我がいのちは一体どこへ向かっていくのか、私の人生には何の意味があるのか、そのような不安にたじろがざるをえません。この世のことをシャバと言いますが、シャバとは、もともとインドの言葉で、思い通りにはならず堪え忍ばなければならぬ世界という意味の言葉です。思い通りにならないこの世のあり様を『正信偈』のこの部分では、「五濁悪時（ごじよくあくじ）」とも表現しています。五濁とは五つの濁りのことで、①劫濁。飢饉や疫病、戦争などの社会悪、②見濁。思想が乱れ、邪悪な思想、自分勝手な見解がはびこること、③煩惱濁。煩惱が盛んになること、④衆生濁。生き物の質が低く悪をほしのままにすること、⑤命濁。寿命があり短いこと、の五つを言います。お釈迦さまの昔も、我々が生きていく今も、何一つ人間のあり様は変わっていないのです。思い通りにならず、自己中心な考えの中で苦しみがきながら生きていく我々の姿が、ごまかしようのない本当の姿なのです。このような、苦悩している我々に、阿弥陀如来という仏さまがいるよ、あなたの傍に寄り添ってくださいと教えるよと教えてくださったのが、お釈迦さまなのです。 つづく

インド 仏教美術の至宝を訪ねる旅⑤



エローラとアジャンターの石窟寺院への観光基地となる町がアウランガーバードである。人口が百万を超える都市であるが、車で十分も走るとそこには高原地帯が広がる落ち着いた町である。町外れの辻にはマーケットが形成され、リングゴやニワトリ、香辛料、アクセサリー、衣類など様々なものがカラフルに売られている。ふと目をマーケットから反らしたところに、見慣れない光景があった。そ

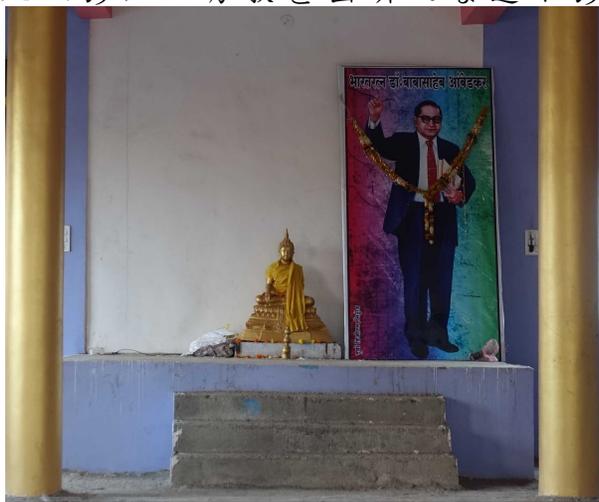
こには、ストウパー型の仏教寺院、黄色くカラフルな装飾のヒンドゥー教寺院、ミナレットのそびえるイスラム寺院が寄り添うように建っているのであつた。ここは決して観光地ではない。ここに建つ寺院はどれも地元の人々の信仰が息づく生きた寺院である。これほど近くで異なる宗教がそれぞれに尊重され共存しているのである。



寄り添う三宗教の寺院

大多数の人が信仰する宗教である。ヴィシヌ派やシヴァ派など、信仰する神によつて様々な宗派があるようであるが、ここが一体何派なのか、どの神を祭っているのか、あまりはつきりしない。お参りに来ている人も様々な神を信仰しているようで、祭壇にも多くの神が並んでいる。これがヒンドゥー教の寛容さの現れであろう。いくつものヒンドゥー寺院を訪ねた結果、人気ナンバーワンの神はどうやらガネーシャであつた。寺院に限らず車中のダツシユポードの上など、至る所にガネーシャがいる。ガネーシャは象の鼻を持つふくよかな神。富の象徴として人気なのだそう。

つづいて、隣の仏教寺院を訪ねた。常に開いている寺院ではないようで、鍵は隣のヒンドゥー教の人が開けてくれた。どのようない仏さまが安置されているのだろうか、内装はどのようになっているのか、ワクワクしながら内部をのぞいたが、とてもシンプルな作りであつた。中央奥の段には、お釈迦さまが座しておられたが、その雰囲気は頭のとがったタイやミャンマー風の仏像である。お釈迦さまの像の隣には大きなオジサン（おじいさん）の肖像画がある。スーツにメガネ姿。一瞬日本人かと思うような出で立ちであるが、この人こそ、滅んでいたインド仏教を再興したアンベードカル師である。



仏教寺院にはお釈迦さまとアンベードカル師

アンベードカルは1891年にカーストの最下層の身分として生まれたが、秀でた才能により大学入學をはたしアメリカやイギリスに留学。1947年のインド独立に際しては憲法草案者の一人として関わっている。また、カースト制に強く反対し、カースト制を容認するヒンドゥー教から仏教への改宗を志し、現在のスリランカやミャンマーを訪問して仏教を学び、1956年には戒律を授かり正式に仏教徒となっている。この行動に続いて約50万もの人々がヒンドゥー教から仏教へ改宗したのである。アンベードカルは仏教徒に改宗を果たしたその二ヶ月後に糖尿病の悪化によりこの世を去るが、この志は後に引き継がれ、現在では840万を超えるインドの人々が仏教徒になっている。

隣のイスラム寺院は諸事情により外から眺めるだけとなつてしまった。ただ、この三宗教が並び立つ姿は、仏教をヒンドゥー教が飲み込み、イスラム教帝国の侵攻など、複雑なインドの宗教事情の中にあつて希有な存在であり、互いに認め合う共存が可能であることを雄弁に物語っていた。 つづく



▲12/23尊光寺報恩講法要
最後に「和三梵」による和楽器コンサート。
尺八・和太鼓・津軽三味線の調が響く。



▲2/10市場文化会館まつり
副住職が「死んだらこうなる」と題して
講演を行いました。

副住職担当「徳島新聞カルチャー教室のご案内」

各講座、受講生募集中（4月より）

■ 仏教講座「御文章（ごぶんしよう）」

「聖人一流の」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

● 毎月第3金曜日 10時～11時半 月額 2500円（税別）

【教室・申込先】徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校

徳島市川内町平石若宮92-4

TEL 088-665-8500

■ 親鸞聖人と「歎異抄（たんにしよう）」

「悪人こそが救われる!」「歎異抄」には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がまつています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に取り組みあじわってまいりましょう。

● 毎月第2月曜日 13時半～15時 月額 2500円（税別）

【教室・申込先】教室は、阿波おどり会館内

申込は、徳島新聞カルチャーセンター 徳島市寺島本町西1-5-5（徳島店9階）

TEL 088-611-3355

※尚講座はこれまでのNHKカルチャー教室から徳島新聞カルチャー教室に移ります。

平成31年 年忌表

1周忌	平成30年
3回忌	平成29年
7回忌	平成25年
13回忌	平成19年
17回忌	平成15年
25回忌	平成7年
33回忌	昭和62年
50回忌	昭和45年
61回忌	昭和34年
100回忌	大正9年
150回忌	明治3年
200回忌	文政3年
250回忌	明和7年
300回忌	享保5年

過去帳・お位牌
をお調べください

三月二十一日（木）
二十二日（金）

両日とも午後一時より お勤め

太陽の沈みゆく西方に、懐かしい方の往かれた浄土を思い、先立った方も、後をゆく私も、ともに南無阿弥陀仏に抱かれて、いることを聞かせていただきましょう。

春の彼岸会永代経法要

ひがんええいたいきよう

二十一日は仏教婦人会総会を兼ねます。

※婦人会会食は十一時半より、お手伝いできます方は九時頃より。

法話講師

本願寺派布教使 龍谷大学講師 本願寺派宗学院研究員
神戸市 信行寺住職

四夷法顯師

2019年

ご本山&大谷本廟参拝団 募集

今年のご本山(西本願寺)・大谷本廟(納骨所、親鸞聖人のお墓)参拝団は下の通り実施いたします。
年に一度の団体参拝ですので、このご縁に参拝なされますようご案内申し上げます。

■ 一泊二日 (6月24日(月)~6月25日(火) 費用3万5千円)

大保スカイトラベル5:30⇒市場⇒八幡⇒土成⇒各地⇒徳島⇒淡路⇒大谷本廟10:00(納骨、法要)⇒
西本願寺(昼食、参拝、おかみそり、書院拝観)⇒あわら温泉(観光・宿泊)⇒吉崎御坊(西別院)蓮如上人ゆかりの地⇒曹洞宗大本山 永平寺⇒帰路(夕食)⇒大保20:00

■ 日帰り (6月24日(月) 費用1万5千円)

大保スカイトラベル5:30⇒(1泊と同じく各地)⇒大谷本廟10:00(納骨、法要)⇒西本願寺(昼食、参拝、おかみそり、書院拝観)⇒妙心寺塔頭退蔵院(書院庭園拝観)⇒淡路(夕食)⇒帰路⇒大保21:00

※ 本山で帰敬式(ききょうしき)を受式希望の方は申し出下さい。(冥加金1万円)。

帰敬式とは、おかみそりを頂き、浄土真宗門徒として自覚をあらたにし、法名を拝受する儀式です。

※ 大谷本廟に納骨(分骨)を希望の方は申し出下さい。

※ 行程は天候や時間等により変更になることもあります。また観光等の希望があれば申し出下さい。

※ お部屋などの希望がある場合は申し出下さい。

申込:尊光寺まで(0883-36-3026)

▼本願寺の親鸞さま



▼大谷本廟参拝・法要



▲退蔵院庭園



▲永平寺唐門

副住職

尊光寺 赤松信映

担当

徳島新聞

カルチャーセンター

～講座案内～

徳島新聞カルチャーセンター（徳島川内本校）

■ 仏教講座『御文章』 ■

「聖人一流の～」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

毎月 **第3金曜日** 10:00～11:30

月額 2,500円（税別）

〈申し込み先〉

4/19から

徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

徳島市川内町平石若宮92-4

TEL 088-665-8500



徳島新聞カルチャーセンター（阿波おどり会館教室/徳島そごう校）

■ 親鸞聖人と『歎異抄』 ■

「悪人こそが救われる!?!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がみつめています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいりましょう。

毎月 **第2月曜日** 13:30～15:00

月額 2,500円（税別）

〈申し込み先〉

4/8から

徳島新聞カルチャーセンターそごう校

徳島市寺島本町西1-5そごう徳島店9F

TEL 088-611-3355

※ 教室は阿波おどり会館内



これまでの NHKカルチャーセンター徳島教室 から 徳島新聞カルチャーセンター に移ります。